

東北地方 3か月予報

(7月から9月までの天候見通し)

平成18年6月22日
仙台管区气象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
この期間の平均気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

7月 前線や寒気、オホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
気温は平年並か低い、降水量は平年並でしょう。

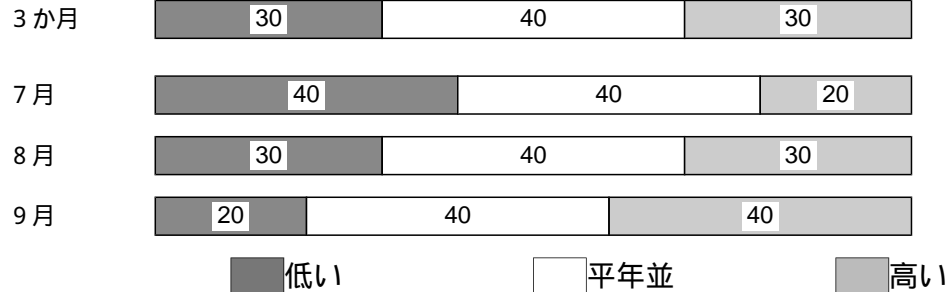
8月 太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い時期がありますが、一時前線や湿った東よりの風の影響で、
天気がぐずつくでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。高気圧に覆われ残暑の厳しい日もありますが、一時前線や
気圧の谷の影響で天気がぐずつく見込みです。東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
気温は平年並か高い、降水量は平年並でしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

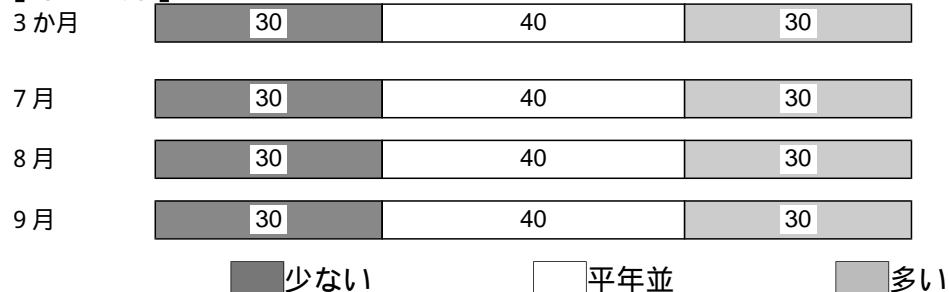
<<気温>>

[東北地方]



<<降水量>>

[東北地方]



< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14 時 30 分 次回は 6 月 23 日

3 か月予報：7 月 25 日（火） 14 時

7 月の予報については、新しい資料による次回以降の 1 か月予報を適宜ご利用ください。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量）

	気 温 ()				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	7月	8月	9月	7月～9月	7月	8月	9月	7月～9月	7月	8月	9月	7月～9月
大船渡	21.0	23.0	19.3	21.1	170.3	198.6	218.7	587.6	150.0	161.5	119.1	430.7
新庄	22.3	23.9	19.0	21.8	185.6	174.5	153.0	513.1	154.4	177.5	112.3	444.3
若松	23.4	24.8	19.9	22.7	160.1	131.0	134.0	425.1	168.9	199.5	125.2	493.6
深浦	21.3	23.1	19.1	21.2	146.0	157.4	176.0	479.4	177.7	185.9	155.4	519.0
青森	21.1	23.0	18.9	21.0	102.6	129.3	119.8	351.7	177.3	190.8	160.0	528.1
むつ	19.6	21.7	18.0	19.7	122.8	140.4	172.7	435.9	151.1	152.8	144.4	448.3
八戸	20.2	22.3	18.6	20.4	117.1	139.8	167.7	424.6	169.0	173.3	144.1	486.4
秋田	22.8	24.5	19.9	22.4	178.1	181.9	177.9	538.0	171.5	200.4	154.9	526.8
盛岡	21.8	23.2	18.3	21.1	165.7	177.8	157.5	501.0	143.2	158.8	123.7	425.7
宮古	20.0	22.2	18.6	20.3	139.2	180.8	229.4	549.4	149.4	165.2	123.0	437.7
酒田	23.2	24.9	20.5	22.8	186.1	175.8	185.4	547.3	179.8	211.6	149.6	541.0
山形	23.2	24.6	19.7	22.5	143.9	148.8	134.3	426.9	155.8	184.7	125.6	466.1
仙台	22.1	24.1	20.4	22.2	159.7	174.2	218.4	552.3	127.7	155.4	119.8	402.9
石巻	21.3	23.5	19.9	21.6	131.0	127.0	163.1	421.1	147.9	178.1	134.0	459.9
福島	23.5	25.2	20.7	23.2	144.8	144.3	169.2	458.3	133.4	159.7	112.6	405.7
白河	22.0	23.3	19.1	21.5	186.8	228.2	215.9	631.0	129.4	154.0	111.3	394.4
小名浜	21.7	23.9	21.3	22.3	120.5	141.7	205.8	468.0	153.1	193.9	135.5	482.5

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、３か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（２）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	7月	8月	9月	7月～9月
気温平年差()	東北地方	-0.1 ～ +0.6	-0.3 ～ +0.6	-0.5 ～ +0.2	-0.4 ～ +0.3
	東北日本海側	-0.2 ～ +0.4	-0.5 ～ +0.5	-0.5 ～ +0.3	-0.3 ～ +0.4
	東北太平洋側	-0.3 ～ +0.8	-0.3 ～ +0.5	-0.4 ～ +0.3	-0.4 ～ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	89 ～ 117	73 ～ 117	86 ～ 110	97 ～ 111
	東北日本海側	83 ～ 123	74 ～ 107	83 ～ 108	89 ～ 109
	東北太平洋側	85 ～ 114	67 ～ 120	87 ～ 112	93 ～ 112
日照時間平年比(%)	東北地方	92 ～ 109	90 ～ 109	97 ～ 106	96 ～ 104
	東北日本海側	88 ～ 108	94 ～ 112	99 ～ 108	96 ～ 104
	東北太平洋側	93 ～ 110	87 ～ 109	97 ～ 106	97 ～ 104

（３）梅雨時期前後における各地の平年の気象経過

旬降水量 平年値 (mm)	5月			6月			7月			8月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大船渡	50.0	55.9	43.9	50.9	60.7	57.6	63.0	69.1	38.2	50.3	56.9	91.5
新庄	40.5	35.8	30.4	25.7	45.3	60.0	64.4	78.1	43.1	60.5	45.3	68.6
若松	27.5	29.3	23.7	20.3	33.7	61.7	56.1	60.5	43.5	47.2	39.1	44.8
深浦	41.3	33.5	34.0	29.4	44.4	33.6	54.4	43.2	48.3	53.8	38.6	65.0
青森	30.0	22.6	26.2	23.6	30.9	27.8	36.8	27.7	38.2	43.2	33.8	52.3
むつ	35.8	27.6	28.8	36.3	36.8	35.8	48.1	39.4	35.3	43.2	32.8	64.4
八戸	26.1	28.6	30.1	26.6	38.1	34.5	48.3	31.7	37.1	37.3	38.2	61.7
秋田	46.5	40.2	36.2	29.7	50.6	47.2	71.5	61.5	45.1	56.8	51.5	73.6
盛岡	38.6	32.7	32.0	30.8	43.3	40.8	56.8	58.2	50.7	58.6	43.7	75.5
宮古	31.9	35.5	31.0	29.5	43.7	44.1	53.8	46.4	39.0	49.5	50.0	81.3
酒田	44.7	37.7	34.4	24.9	46.4	56.7	70.1	70.7	45.3	57.4	40.0	78.4
山形	27.0	30.3	24.0	24.4	28.2	50.0	44.5	56.2	43.2	50.1	36.3	62.4
石巻	33.3	37.6	27.3	27.2	31.9	52.6	46.1	52.1	32.9	36.1	33.3	57.6
福島	25.9	35.8	25.8	25.4	31.4	61.4	46.5	53.6	44.8	45.7	36.5	62.2
白河	40.4	41.3	38.2	40.1	55.5	72.0	65.0	69.4	52.4	65.8	62.8	99.7
小名浜	48.3	60.3	38.5	35.3	47.4	67.1	49.5	46.3	24.7	46.3	33.5	61.9

旬日照時間 平年値 (h)	5 月			6 月			7 月			8 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大船渡	61.1	61.1	74.1	59.0	50.1	39.1	45.3	41.9	63.0	59.3	51.4	50.9
新庄	55.7	56.8	67.6	59.7	53.2	39.9	40.8	45.3	68.4	60.6	61.3	55.6
若松	62.8	60.1	74.9	63.9	53.9	40.1	46.8	45.6	76.6	67.8	66.4	65.3
深浦	58.4	63.9	75.1	64.5	58.6	56.6	52.7	56.1	68.9	63.3	61.8	60.8
青森	64.7	68.3	77.5	64.0	59.6	57.1	53.8	56.3	67.2	67.0	60.8	63.1
むつ	64.9	65.4	77.5	61.2	52.8	48.7	47.3	45.8	58.0	57.6	46.5	48.9
八戸	65.6	64.9	77.1	61.9	56.5	50.5	51.0	51.5	66.6	62.8	56.3	54.3
秋田	56.9	61.2	73.2	65.6	59.5	53.1	49.3	52.8	69.5	65.5	68.0	66.9
盛岡	61.3	61.7	71.9	57.8	51.3	42.6	42.2	42.0	59.1	56.4	52.9	49.6
宮古	61.6	59.4	70.8	55.3	45.3	39.8	44.9	40.8	63.9	57.7	54.7	53.0
酒田	60.5	62.3	76.6	66.2	60.0	49.7	46.5	53.4	80.0	71.0	72.3	68.3
山形	62.9	62.0	76.9	62.2	52.3	39.3	42.7	43.2	70.0	61.9	61.8	61.0
石巻	65.1	63.8	77.6	59.5	48.6	37.6	42.6	44.5	62.4	62.7	57.9	57.6
福島	64.1	59.7	74.2	54.6	43.6	32.0	37.8	37.1	58.8	57.7	51.5	50.6
白河	59.9	59.1	69.5	51.9	41.4	28.9	35.9	35.5	58.9	54.1	50.3	49.7
小名浜	62.7	62.4	74.5	58.5	44.9	35.2	42.1	41.9	69.4	66.0	65.0	63.0

(4) 接近する台風の平年値

	7 月	8 月	9 月
東北地方	0.3	0.7	0.8

< 参考資料 (利用上の注意) >

(1) 気温 (降水量) 等は、「低い (少ない) 」「平年並」「高い (多い) 」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分 (それぞれ 3 3 %) となるように決めてあります (気候的出現率と呼びます) 。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 1 0 % 以下や 6 0 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度 (3 0 % 、 4 0 %) の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い (少ない) 場合は「平年に比べて多い (少ない) 」、また平年の日数と同程度に多い (少ない) 場合には「平年と同様に多い (少ない) 」と表現します。なお、単に多い (少ない) と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い (少ない) ことを意味します。

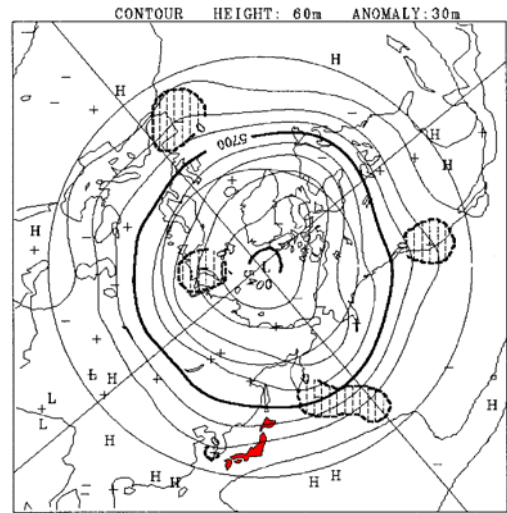
東北地方 3か月予報解説資料 (7~9月)

平成 18 年 6 月 22 日 仙台管区气象台

1. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

予想図ではほぼ全域で正偏差域（暖気に対応）。日本の南の太平洋高気圧も強く、晴れて暑い時期があるが、日本の北の高度も高く、オホーツク海高気圧の影響を受け低温となる時期もある見込み。



3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図

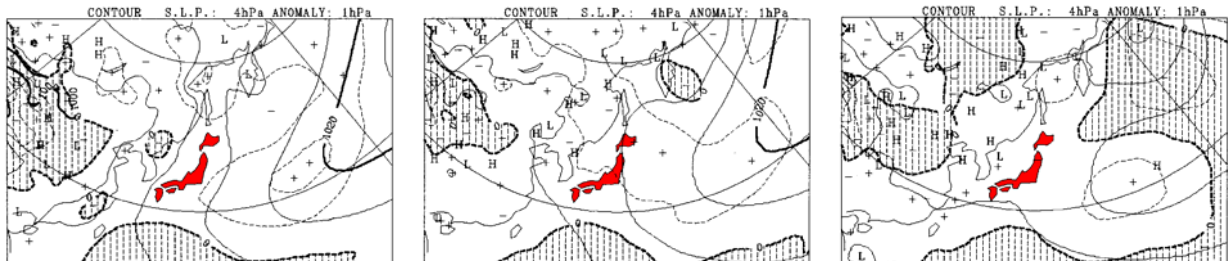
実線は等高線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

月別の地上気圧と偏差の予想図（下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。）：

7月：正偏差（平年より気圧が高い）の中心が、オホーツク海と日本の南東海上。北の高気圧が強く一時オホーツク海高気圧の影響を受ける。また寒気が南下することもあり、低温になる時期がある見込み。ただし太平洋高気圧も強いことから晴れて暑くなる日もある見込み。月全体では平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年並か低い（平年の晴れ日数は3ページ目参考資料に掲載）。

8月：日本付近は正偏差で平年より気圧が高く、正偏差の中心が北日本から日本の東海上に連なる。太平洋高気圧が北に勢力を強め晴れて暑い時期があるが、南東からの湿った気流や前線の影響で一時天気がぐずつく見込み。また前線の北側に入り、寒気の影響を受け低温になる日もある見込み。月全体では東北地方は平年と同様に日本海側を中心に晴れの日が多い。

9月：日本のはるか南東海上とオホーツク海に正偏差の中心がある。日本付近は相対的な気圧の谷で平年同様曇りや雨の日が多い見込み。また日本の南東海上の太平洋高気圧が強いことから、気温は平年並か高く、残暑が厳しい日もある見込み。

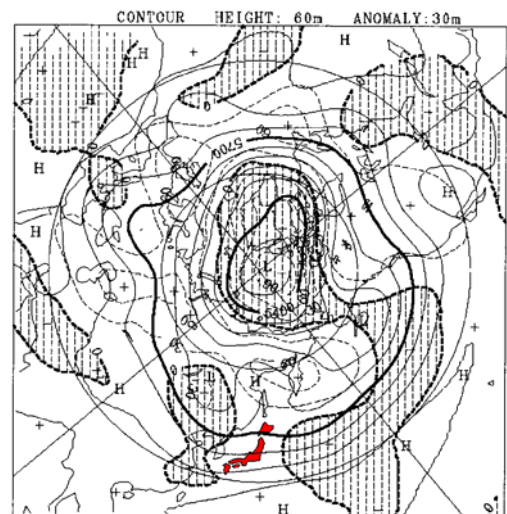


月別の地上気圧と偏差の予想図（左から7月、8月、9月）

実線は等圧線：4hPa 毎、点線は偏差：間隔 1hPa 毎、陰影部は負偏差

2. 循環場の特徴

6月：500hPa 高度では、オホーツク海付近で等高線が北に蛇行し、強い正偏差となっており、オホーツク海高気圧が現れたことに対応している。東北地方は、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響で太平洋側の北部では低温となった。また日本の南の太平洋高気圧も平年よりやや強く、東北地方は時々梅雨前線の影響を受けた。このため東北地方は太平洋側を中心に日照時間がかなり少なくなった。



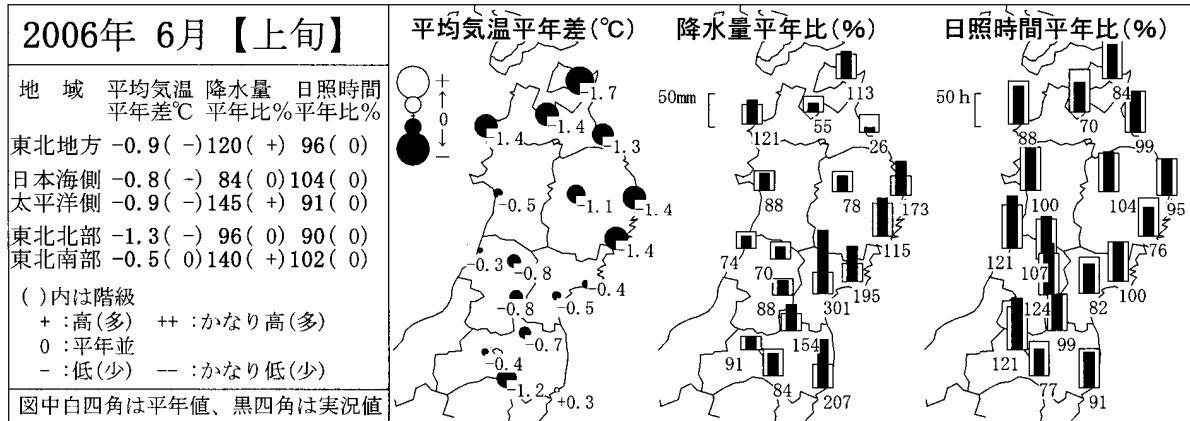
6月平均500hPa高度（予想値を含む）

実線は等高線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差

3. 最近の天候経過

6月上旬：前半は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、1～2日は上空の寒気の影響で東北北部は雨の所もあった。後半はオホーツク海高気圧や前線の影響で東北太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。6～7日は上空に寒気が入ったため、東北南部の所々で強い雷雨となり、停電や土砂崩れなどの被害がでた。気温は寒気やオホーツク海高気圧の影響で東北北部を中心に低温となった。なお東北南部では9日ごろ梅雨入りしたと見られる（平年は6月10日ごろ）。

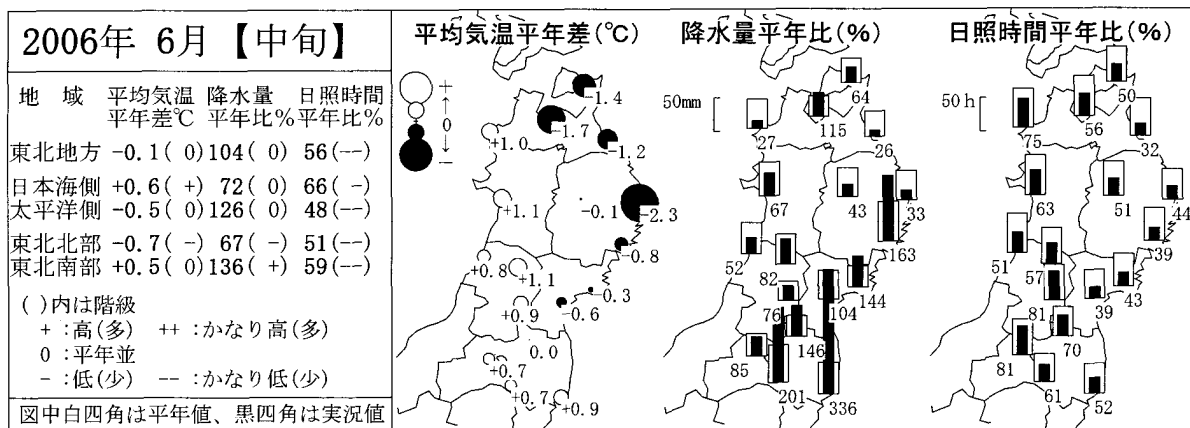
平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は東北地方で平年並。



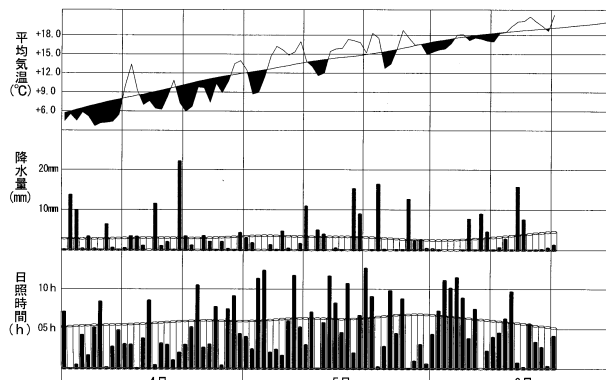
東北地方における6月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

6月中旬：前線や寒気、北に偏った高気圧からの湿った東よりの風の影響で東北太平洋側を中心に曇りや雨の日が多く、北部の太平洋沿岸部では低温になった。16日は本州の南岸沿いを低気圧が東進し、東北太平洋側の南部では大雨となり、福島県の浜通りでは日雨量150ミリを超えるところもあった。なお、東北北部では15日ごろ梅雨入りしたと見られる（平年は6月12日ごろ）。

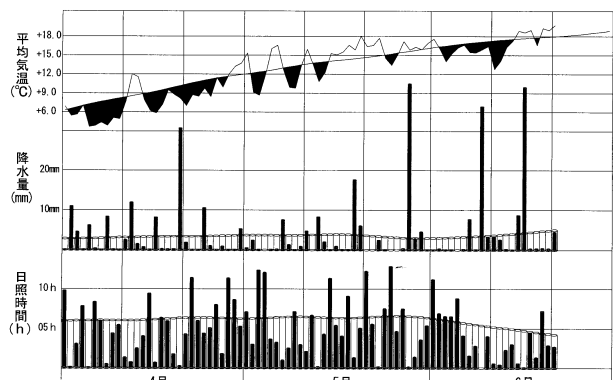
平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。



東北地方における6月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）



東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

[エルニーニョ監視速報](#) (No. 165) より抜粋。(気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、西部で平年より高いことを除き、全域で平年並だった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）の水温は、東部でほぼ平年並、西部で正偏差だった。太平洋赤道域の対流活動はほぼ全域で平年並だった。ラニーニャ現象時の特徴は解消した。

エルニーニョ監視海域の海面水温は夏から秋にかけて基準値に近い値で推移すると予測され、今回のラニーニャ現象はこの春に終息したと考えられる。予測期間中にエルニーニョ現象およびラニーニャ現象の発生する可能性は低い。

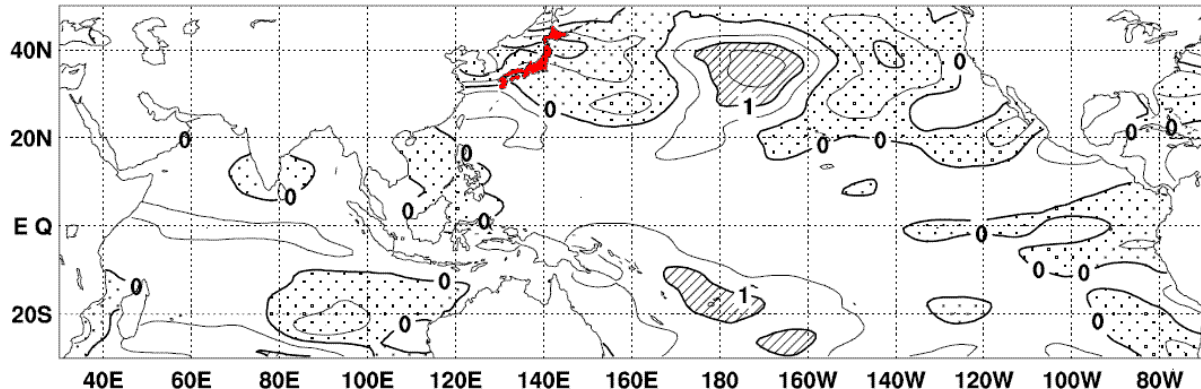


図 2006 年 5 月の海面水温図平年偏差図。太線は 1℃毎、細線は 0.5℃毎の等値線を示す。濃い陰影部は海面水温が平年値より 1℃以上高い領域を、淡い陰影部は平年値より低い領域を示す（平年値は 1971～2000 年の 30 年平均値）。

<参考資料>

①. 平年の天気出現日数（日）

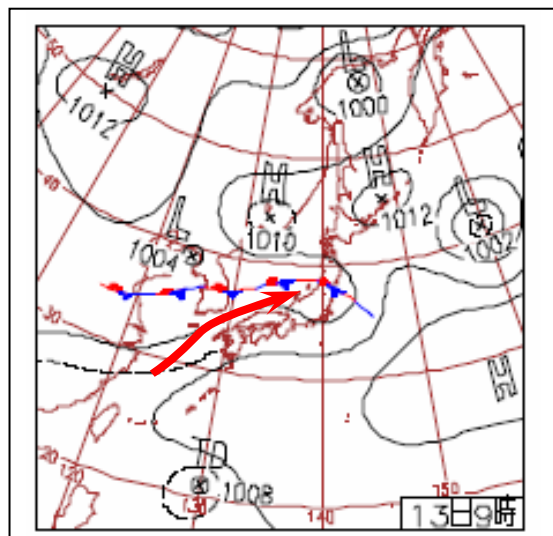
	7 月		8 月		9 月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.6	12.6	18.1	15.8	14.3	13.2
雨の日	10.9	11.1	9.7	9.9	12.5	12.0

注：季節予報では、「日照率 40%以上の日数」、「日降水量 1mm 以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この 2 つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は 1 日の日照時間を可照時間（太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間）で割った値である。

②. 梅雨末期の豪雨

梅雨期も末期になると梅雨前線が北上し東北地方に停滞することが多くなります。梅雨前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、前線付近では大雨となることがあります。大雨で地盤が緩み土砂災害の危険性が非常に高まったときは、気象台では大雨警報を更新して「過去数年間で最も土砂災害が発生する可能性が高まっている」という情報を発信します。また大雨は局地性が強い場合があり、頭の上で降っていなくても河川の上流で大雨となり河川が増水することがありますので注意が必要です。

右図は平成 16 年の新潟福島豪雨の時の地上天気図です。梅雨前線が東北南部に停滞しており、この時も前線の南側には暖かく湿った空気が流れこんでいました。日降水量は栃尾（新潟県栃尾市）で 421mm、只見（福島県只見町）で 325mm を観測しました。新潟県では相次いで河川の堤防が決壊し、多数の浸水害が発生しました。福島県でも多くの河川が警戒水位を超え、複数の堤防で水があふれるなどの被害が発生しました。



2004 年 7 月 13 日 09 時の地上天気図
図中の H は高気圧、L は低気圧を表す。
矢印は暖かく湿った空気の流入を示す。